

# スイス旅行記

会員番号 4211 後藤忠臣

6月18日	関西国際空港23:40発のエミレーツ航空でドバイに向け出発	
6月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>約10時間の飛行でアラブ首長国連邦のドバイ空港に到着。</li> <li>4時間待ち+7時間の飛行でチューリッヒに到着。(関空を出発してから21時間経過)</li> <li>エミレーツ航空はアラブ首長国連邦の航空会社ですが、搭乗員は全て外国人でした。</li> <li>専用バスで「ハイジの故郷」マイエンフェルトへ。</li> <li>ハイジを実在した人物と思っていたツアー客は、児童文学の登場人物と聞いて「知らなかった!」。</li> <li>「ハイジの里」には泉の水を見つめるハイジの石像が有りましたが・・・。</li> <li>バスは宿泊先のサンモリッツへ。途中、シーザーも越えたという「ジュリア・パス」という峠(2,284m)を通りましたが、2000年以上前に人馬主体の軍隊の峠越えは苦勞したことでしょう。</li> <li>1日目は時差ボケ解消の休養日といった感じです。</li> </ul>	
6月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンモリッツからイタリアのティラノにベルニナ特急で移動。</li> <li>スイスはEU未加入ですが、パスポート無しで入出国できるそうです。</li> <li>列車はループを描きながら高度を稼いで行きます。</li> <li>石造のループ橋を通過する赤い列車の姿は絵になりますね。</li> <li>専用バスでベルニナディアポレッツァ、ロープウェイで氷河を眺めながらディアポレッツァ展望台に到着。</li> <li>曇り空でしたが、ベルニナアルプスの山々が出迎えてくれました。</li> <li>宿泊先のサンモリッツのホテルまで専用バスで移動。</li> <li>今回のツアーは同じホテルに2連泊する為、スーツケースを置いておけるので助かりました。</li> </ul>	
6月21日	<ul style="list-style-type: none"> <li>サンモリッツから氷河特急パノラマカーでアンデルマットへ。</li> <li>この路線はループ、高架橋、トンネルの連続でゆっくりと登って行きます。「世界一遅い特急」と言われるそうですが、遅い特急も鉄道ファンの憧れの的です。</li> <li>見所は高さ65mの石造のラントパッサー橋。(後ろの車両に乗ったので、良い写真は写せませんでした)</li> <li>アンデルマットからは専用バスの車窓からミシャベルアルプスを眺めながらテーシュ駅へ。列車でマッターホルンの麓のツェルマットに到着。</li> </ul>	
6月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>登山列車でマッターホルンやゴルナー氷河の展望台として知られるゴルナーグラード展望台へ。</li> <li>3,100mの尾根にはホテルもあり、屋上に設置された電波天文台も現役。雪までチラつく天候でマッターホルンは全く見えず、逆さまッターホルンが見られるポイントへのハイキングも断念せざるを得ませんでした。</li> <li>予定を変更し高山植物を観察しながらハイキングしましたが、後ろを振り返るとマッターホルンが雲の間から顔を見せてくれました。ツェルマットに到着した頃には、夕日に映えるマッターホルンが輝いていました。</li> <li>明朝は4:30起床で朝日に輝くマッターホルンに期待を込めて早めに就寝。</li> </ul>	
6月23日	<ul style="list-style-type: none"> <li>4:30のモーニングコールで飛び起きて、ホテル近くのポイントへ。</li> <li>曇一つない好天で、既に多くの先客がカメラを構えて日の出を待っていました。</li> <li>5時を過ぎるとマッターホルンの全容がはっきりと見えてきました。</li> <li>そして5:30頂きが黄金色に輝き出しました。思わず拍手したり手を合わせる観光客達。</li> <li>気が付くと連写モードで50枚も写していました。この旅のクライマックスになった1時間でした。</li> <li>専用バスでモンブランが展望できるエギュー・デュ・ミディ展望台を目指しフランスのシャモニーに向け出発です。</li> <li>フランス入国もパスポート無しで通過しロープウェイで展望台に到着。</li> <li>紺碧の空の元、モンブランは・・・雲の中から時々チラッと姿を見せてくれましたが、全貌は望めませんでした。</li> <li>スイス3度目のツアー仲間は「まだエエ方ですよ」と。</li> </ul>	
6月24日	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の宿泊地ウエンゲンに向かう途中、スイス連邦の首都ベルンに立ち寄りしました。</li> <li>首都・・・ロンドンやパリとは違って、人口は約13万人とこじんまりしています。</li> <li>都市の規模ではチューリッヒ・バーゼル・ジュネーブに次ぐ第4位ですが、古くから政治の中心として栄えてきた伝統が受け継がれユネスコの世界文化遺産に登録されています。</li> <li>街を歩くとベルンの語源と言われるクマの紋章が数多く掲げられています。</li> <li>残念ながらベルン大聖堂のタワー部分は修復中でしたが、石畳の街を散策すると時計塔などの歴史的な建築物が数多く見られます。</li> <li>同行の友人は、最大の目的がベルンの石造建築物だったので時間の許す限り見て回り列車でウエンゲンへ。</li> </ul>	
6月25日	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日はユングフラウ・アイガー・メンヒを展望できるスフィンクス展望台に向かいます。</li> <li>ウエンゲンからクライネシャイデックまではロープウェイで、クライネシャイデック駅を出発した列車はすぐにトンネルに入ります。このトンネルはアイガー・メンヒをくり貫いたもので、途中の停車駅の覗く窓からアイガー北壁を望む事が出来るとの事でしたが、この日は窓の外は雪ばかりでその一部も垣間見る事が出来ませんでした。</li> <li>ガイドさんは「7月中旬以降なら・・・」と悔しがっていましたが、年によって状況は異なるようです。</li> <li>ユングフラウヨッホ駅に降り立ちましたが吹雪の状況で視界はゼロ。</li> <li>アイスパレスという氷の彫刻の展示を見て天候の回復を待ちましたが、諦めて下山する事に。</li> <li>クライネシャイデックから一駅分を徒歩で高山植物を観察しながらハイキングをしました。終始ユングフラウの姿は望めませんでした。</li> </ul>	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>氷河が削ったU字渓谷を挟んでアイガー・メンヒ・ユングフラウを望めるアルメントフーベルに向かいます。</li> <li>ウエンゲンから列車・バス・ケーブルカーを乗り継いでアンメルトフーベルへ。</li> <li>途中のU字渓谷は幅600m、深さ300mもあり、落差300mのシュタウバッハの滝など多くの滝が見られます。</li> <li>水が削るとV字谷、氷河が削るとU字谷・・・自然の力の大きさを感じました。</li> <li>残念ながらこの日もユングフラウは姿を見せてくれませんでした。</li> <li>ユングフラウはドイツ語で乙女との事、恥ずかしがり屋さんなのかも知れませんがね。</li> <li>この日も高山植物を観察しながら専用バスの駐車場までハイキングで下山しました。</li> <li>専用バスでチューリッヒ空港へ。往路と同じくエミレーツ航空でドバイ経由し関西国際空港へ。</li> </ul>	<p>現地6泊のスイス旅行でしたが、天候には恵まれませんでした。何度かスイス旅行している人に聞くと、「一度のスイス行きで全部見られると思ったら大間違い。3度行ってやっとと言うのがスイスです」と。という事は今回は60点と言ったところでしょうか？機会と資金があれば、もう一度挑戦したい思います。</p>